

# 3WAYウェディングドレスの提案

## —お色直しの変遷—

野口 恵梨

[指導教員：武庫川女子大学准教授 山本泉]

キーワード：ウェディングドレス, 2way, 3way

### 1. 制作の背景・目的

ウェディングドレスには、さまざまな意味や織り込まれた歴史、流行の変遷が存在する。ウェディングドレスはひとりの女性のスタイルを真摯に主張するものであり、また、多くの女性の憧れであり“あらゆるドレスの中のドレス”として君臨するのである。花嫁は、何か月も考えに考えぬいて、自分に1番合うドレスを選び抜くのである。そのようなウェディングドレスは、女性が身に着けるドレスの中で最も特別なドレスであろう。数えきれないほど多くのドレスが存在する現在の中で、自分の理想のドレスと出会うことはとても困難でもある。しかし、そんな選び抜いたお気に入りのウェディングドレスも、1度きりの短い時間で役目を終えてしまう。私は、そのウェディングドレスの実情をととても寂しく、残念に思う。そこで、挙式・披露宴・2次会とどのような場面でも着こなすことが可能なウェディングドレスを提案しようと考えた。また、それに加え、卒業パーティや友達の結婚パーティなど、さまざまなパーティに着ていけるような「長く愛されるドレス」を提案する。

### 2. お色直し

#### 2-1. お色直しについて

お色直しとは新郎新婦が結婚披露宴の途中に衣装を変えることである。本来、神聖な結婚式を表す白一色の白無垢から、結婚して相手の家に染まるという意味で色打掛に着替えることを示していたが、現在は、純白のドレスから、色物のドレスに着替えることを意味している。古く奈良時代では、結婚して三日間は白無垢を着続け、やっと4日目で色打掛を許されていたそうである。現在ではその経緯が簡略化され、式の中で済ませるようになった。

#### 2-2. お色直しの利点と欠点

挙式、披露宴と行うのならばお色直しをするケースが多くみられる。メリットとしては、色々な衣装を着ることができ、写真を見返した時も華やかである。また、お色直しで1度席を立つ際の中座である。席を立つということは、一見デメリットに思えるかもしれないが、中座と再入場はイベントになり、披露宴を盛り上げることができる。また新郎新婦のトイレ休憩にもなる。一方、デメリットは、何着も衣装を着ること、より費用がかかることや、衣装によってはお色直しに時間がかかりすぎてしまうこともあるという点である。また、キャンドルサービスや写真撮影などは、お色直し後に

行なわれることが多く、せっかくのメインのウェディングドレスがあまり写真に残らないということもデメリットのひとつである。

では、お色直しをしないメリットはというと、お気に入りのウェディングドレスをずっと着ていられるということや、中座中に流すことの多い、プロフィール映像などのイベントを来場者の方と一緒に見ることもできる。中座がなければ慌ただしい感じがなく披露宴を楽しめることであろう。

### 3. 2way ウェディングドレス

2way ウェディングドレスとは、1着のドレスで2種類以上の違うアレンジで着こなしを楽しむことができる、現在注目をあびているドレスである。ノースリーブのシンプルなドレスにボレロやジャケットを羽織ったり、ネックラインを取り外してビスチェタイプにしたりとアレンジはさまざまである。また長いトレーンやオーバースカートの付け外しなどでドレス丈を変化させる場合が多い。

#### 3-1. 2way ウェディングドレスの現状と傾向

2way ウェディングドレスの注目が高まったのは結婚式スタイルの多様化に加え、お色直しの有無やドレスの着数の変化も理由のひとつである。今まで主流であったウェディングドレスとカラードレスの組み合わせを着た花嫁は昨年より減少していたが、ウェディングドレスと色打掛を着た花嫁は増加した<sup>1)</sup>。同時に、ウェディングドレス1着のみで挙式をする花嫁も増えており、“洋服はウェディングドレス1着”という花嫁が増えているという結果になる。そんななか、2way ウェディングドレスなどの活用で、ウェディングドレスをもっと着まわそうと考える花嫁が増えているのである。

#### 3-2. 2way ウェディングドレスの魅力と注意点

2way ウェディングドレスの魅力は、簡単な取り外しによって、イメージを大きく変化させることが可能であるということである。そして、2way ウェディングドレスの本領を發揮できるのは、例えば結婚式はきちんとした教会で挙げたいけれども、披露宴はレストランで簡単に行きたい、などの希望をもつ花嫁の場合である。また、式とはまた違った新しいメンバーが集まる2次会パーティでは、やはり白いウェディングドレスを改めて披露したいものである。このような花嫁は、挙式ではロングトレーンをドレスに取り付け、レストランではトレーンを取り外すという2wayのアレンジを活用す

ることが最適である。注意すべき点は、2way にすることで、その分1スタイルを着ている時間が短くなるという点である。写真に、結局1つのスタイルでの写真ばかりが出来上がるといことにならぬよう、どのシーンでどのスタイルでいるか、お色直しのタイミングのプランを練ることが大切である。また、2way の構造が複雑であると、かえってアレンジチェンジに時間がかかってしまう場合や、アレンジを変化させても、あまり印象が変わらず、貧相なお色直しになってしまう場合があるので注意が必要となる。

#### 4. 3way ウェディングドレスの提案

2way ドレスが注目されるなか、卒業制作として2way ドレスよりさらにアレンジのバリエーションを広げ、パーティードレス、ロングウェディングドレス、ミニカラードレスの3way ドレスを企画し、制作しようと考えた。お色直しの手順をより簡単にするによって、写真撮影がよく行なわれる、御見送りの場面で、短時間で白いウェディングドレスに戻すということも可能となる。

##### 4-1. デザイン

シルエットは、上半身はウエストまでフィットし、腰から下のスカート部分はギャザーやフレアでふんわりと広がったプリンセスラインとする。ウエストラインを細く見せる効果があり、体型を選ばず誰にでも似合うラインである。また、身頃は、肩紐がなく、首から指先まで素肌を露出することで、アームラインを長く細く見せる効果があるビスチェタイプとする。ワイヤーを使用し胸の形を整えて、上半身のシルエットを強調する、体にフィットしたデザインである。デコルテが広く開いているため、アクセサリが映えて見える。

##### 4-2. 3way ドレスの企画<sup>2) 3)</sup>

###### A. パーティードレス

自分の結婚式・披露宴だけではなく、卒業パーティや二次会などの普段のパーティで着こなすことができるドレス。

###### B. ミニカラードレス

結婚式・披露宴などのお色直しや、最近多くみられるレストランウェディングなどで着こなすことができるドレス。花のコサージュを施した巻きスカート型のオーバースカートを取り付けるとで気軽に華やかな印象を表現する。

###### C. ロングウェディングドレス

ミニ丈のパーティードレスにボリュームのあるロング丈のアンダースカートを合わせることで大きく印象を変える。挙式や披露宴などで華やかに着こなすことができるドレス。

上記(A, B, C)を3wayとして3way ウェディングドレスを制作する。

#### 5. まとめ

制作において、最も身体にフィットする部分であるビスチェ部分は、シーチングでサンプルを制作し、試着・修正を特に慎重に行い、何度もパターンを作り直した。ボリュームを出したかったため、パニエ制作や、ドレスのスカート部分など、ギャザーを寄せる作業が多く苦労した。ビーズ刺繍の施されたレース素材をビスチェ部分に使用したことで、ウェディングドレスには欠かせない華やかさを出すことができた。

いつの時代も女性の憧れの的として愛し続けられるウェディングドレスも、流行や、用途、結婚披露宴のカタチ等さまざまな要因の中で花嫁がより満足できるものへと進化し続けている。数多くのウェディングドレスの中で、自分に1番あったりのドレスを選ぶことは、とても困難ではあるが、女性の大きな楽しみであり喜びである。



図1 完成写真(A)



図2 完成写真(B)



図3 完成写真(C)

#### 注及び参考文献

- 1) ゼクシィ 結婚トレンド調査2012(首都圏版)
  - 2) 月居良子: 手作りウェディングドレス, 文化出版局, 2004
  - 3) 井上喜久子, 土居郁子: スカートのデザイン 112, 文化出版局, 2005
- ・ カーリー・ローニー, 沖野十亜子: ウェディングドレス・ブック, 株式会社フレックス・ファーム, 2003
  - ・ ウェディングドレス基礎知識集, <http://www.chariot-japan.com>